

頭陀袋

⑬ 平成二十五十一月号

発行 中山かんのん

恩 林 寺

中山中学下、電話三四一―一二四五

四門出遊

(生老病死)

あるときゴードマシッダルタ王子は城の外に出た
いと思ひ、父王の許しを得て東の門から出られた。
そして馬車に乗って園林に向う途中、頭は白く歯
は抜け落ち、痩せ衰えて腰の曲がった男を見られ
ました。

王子はびつくりして控の者に「ああ、どうしてこの
人は、こんな姿をしているのか？」と、聞かれまし
た。「王子様、これは老人というものです。」

「どうして老人といわれるのか？」
「人は、年をとると皆、このようになり、余命いく
ばくもなくなります。」

「私もそうなるのか？」
「其れはまぬがれることができないのか？」
「王子様、生きている者は皆老います。これはどん
な偉い人でも免れることはできません。」

王子はこれを聞いてすっかり気が沈み、行楽の気
分は消え失せてしまいました。
またある日、二度目の外出をすることになり、今
度は南の門から出られました。

すると途中で、身はやせ細り、顔は黒ずんだ一人
の病人が、自分の汚物でまみれて苦しんでいまし
た。

控の者は、
「これは病人という者で人は誰でもかならず病氣
になります。」
と、いわれ、王子は楽しもうという気持ちは消え
失せてしまいました。

三度目は西門から出ることになり、途中で死んだ人

おてら
出に行こう。

おしょうさんと

ともたち

友達になろう。



を嘆きかなしむ人たちを見かけられました。

「これは何というものか？」

「これは死人というものです。」

「死とはどういうものか？」

「死とは命が尽きることです。二度と親、兄弟を
見ることができなくなります。」

「私もそうなるのか？」

「そのとおりです。生あれば必ず死があります。」

其れは誰ひとりのがれることはできません。」
太子は悄然として馬車を城内に引き返させた。ま
たある日、四度目の外出のとき、北の門から出て
歩いていると

ある人が衣を身にまとい鉢を手にして歩いている
のをご覧になり、「あれは誰か？」と、
太子が聞かれると、

「彼は、出家した僧です。僧とは人間の欲と情愛
をすべて断ち切った人で、何事にもまどわされず、
飢えることも、楽しむこともない境地にある人で
す。」

これを聞いた太子はきつと、此処に救いの道があ
るものと確信しました。

これがお釈迦様が出家を志すきっかけとなったの
です。

四門とは東方 発心門、南方 修行門
西方 菩提門 北方 涅槃門といい、
佛葬では四門を行道する。